

1987.7.26

上部 (59)

上部  
(59)

正宮

津江

問題を刺激するとして発禁になつたといふ。今も昔のオカミの発想に変わらないが、禁じられてゐなお、この歌にこめられた思いは人々の心をとらえ統けてきた。

この歌は初めて習った朝鮮語の歌だ。た。十年前のノートを開くと、誤字だらけのまるで稚拙なハンブルか並んでいる。それも黒板をやつと字しただけで全然読みず、カタカナがしつかりふつてある。意味も説明されたはずだが、書きまとめるひまもなかつたらしい。ただ、初めて聞いたメロディーに、きれいな歌だと単純に思つたことは覚えている。

後に乍つて、この歌が朝鮮民主主義人民共和国の歌であることを知り、講師が統運系の人であることを知つた。更にずっと後になつてから、この歌がかつて日本語でも歌われていたことを知つた。フォーラ・クルセダーズが歌つていたのだと教えられても、まったくピンとこなかつた。歌つて来たヨン・パライレなら、小学生の頃に流行したりを覚憶しているが……。ほかの受講生は皆、「ああ、あの歌……」とすぐにみづかたを連れてきた。世代が違つたなあと（自分が無知を棚に上げて）妙な興合に感心したものだ。二十年前にこの歌が出ると、詞が朝鮮の南北

臨津江（韓国では「己」音が落ちて「임진강」となる）。元山の南西・馬息嶺山脈に発し、南へ流れて沿岸に達すると、今度はそれに沿うかのように西へ向かい、漢江と合して海に至る。北の地も南北地も知つてゐる河。軍事境界線を流れることになつてしまつた河。その臨津江を、板門店へ向かう観光バスの中から見下ろしたことがある。梅雨どきのせいかその流れは茶色く濁つていて、想像していたより川幅が狭く感じられた。バスが一気に駆け抜けたせいかもしれない。歩いて橋を渡つてみたい。土手に腰をおろしてみたい。その水音に聞き入つてみた……どれほど多くの恨み、悲しみがこの河に呑みこまれたことだろう。

臨津江は民族分断を象徴するかのようないいに、歌は南北を問わず多いが、この歌も静かに、しかし確実に歌い継がれてゆく歌だとうと思う。

（若生）

서정적으로

박세 임작자  
고종환 작곡

cresc.

고 향 남 쭈 향 가 구 퍼 도 뜻 가 -  
동 벌 이 삭 마 다 물 결 우 에 층 추 -

나 립 진 강 호 름 아 월 한  
나 립 진 강 호 름 을 가 르

1 2

실 자 고 호 르 는 나 2장 라  
자 는 뜻 하 리

1. 脇津江水清く 中なかに流れ

水鳥自由に 飛ひかうけれど

ふるえと 南の地 行くに行かぬ

脇津江の流れよ 根木乗せて流る

2. 川向こう 草原に ヨシキリの声高く

乾いた野原には 草の根ばかり

農場の穂波は 川面に踊る

脇津江の流れを 分かれはできぬ